

川島グループ

減収も経常益横ばい

19年度相場低迷など響く

非鉄総合商社、川嶋（浜松市西区）を中心とする川島グループ（川嶋義勝代表）は2020年3月期（19年度）の連結決算が速報ベースで売上高が648億6700万円、経常利益で34億7600万円となったことを明らかにした。売上高は減収となったが利益はほぼ横ばいとなった。

グループ37社の決算時期に差異があるため概算での計上になるが、売上高は年度を通じて18年度を下回った。世界的な景気減速が19年から始まっていることや非鉄相場の低迷などが売り上げに影響。前期比8%減とな

今期売上高650億円予想

った。一方、経常利益は非鉄金属事業が堅調推移したことで前期実績の34億8000万円とほぼ同値を保った。19年度は主力事業であるアルミニウム二次合金事

業などをはじめとする非鉄金属事業が需要減と相場低迷などの影響で伸び悩んだ。シニアカーなどの製造、販売を手掛ける電動カート事業は堅調に推移し、

ゴルフ場経営などのレジャー事業も安定した業績を保った。中国などの環境規制強化に伴う廃棄物の国内処理増加の流れを受け、産業廃棄物事業も好調に推

移した。

20年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて厳しい経済環境を想定するが、グループ各社でシナジーを創出し、前向きに取り組むを進めていく。

それにより売上高は19年度並みの650億円を見込む。経常利益は19年度を下回る30億円を予測している。

同グループはアルミニウム精錬や貴金属スクラッ

プのリサイクル・リユースなど非鉄金属関連分野で、幅広く事業を展開する総合非鉄リサイクル企業グループ。近年では不動産、レジャー、介護など金属以外にも幅広い分野で事業を展開している。